

スマート農業推進フォーラム  
2023 in 近畿

2023年12月5日

# ナシでの天敵製剤 (カブリダニ製剤) の利用

農研機構 植物防疫研究部門  
外山 晶敏

## 個別の調整・最適化が必要

- 天敵の利用は、その使い方や栽培条件、園の環境に大きく依存する技術。加えて、ハダニ類や土着天敵の発生は年次変動も大きく、安定した効果を得るためには、試行期間を設け、それぞれの地域や園の実態に則した調整を行うことが必要。

## 病虫害防除暦の変更による影響

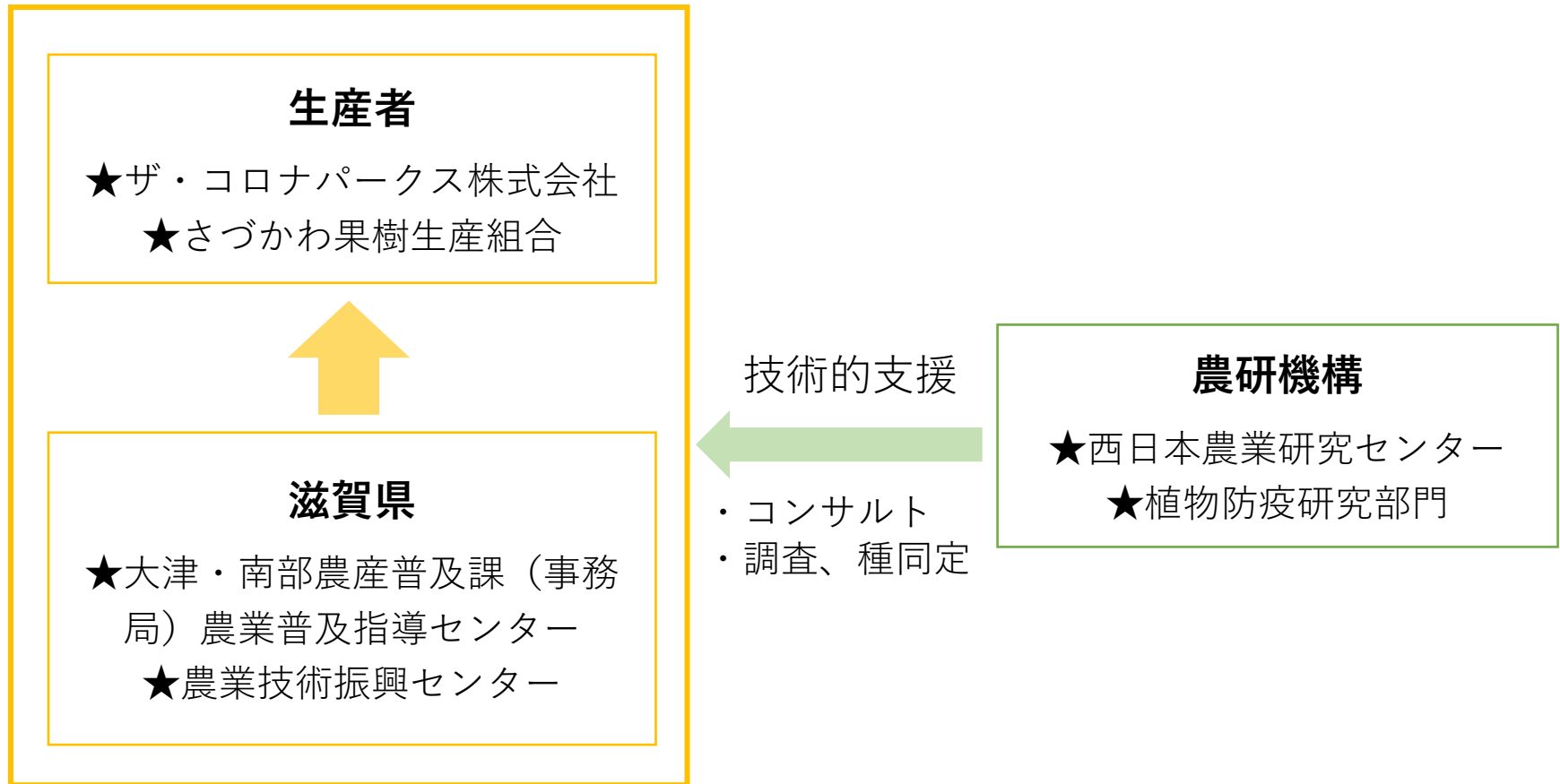
- ハダニ管理における天敵利用は、病虫害防除体系の抜本的な見直しを含むため、導入に際しては、薬剤の選定と散布時期の調整は基より、時には想定外の病虫害へ対応が必要。

## 専門家のサポートが必要

- 専門知識・経験を有する機関（公設試、県やJAの普及指導機関等）や人の支援・協力が必要不可欠。

## 安定までに時間を要する

- 年を重ねることで環境が安定し、土着天敵の種類や密度が増える。周辺を含む果樹園の土着天敵相が充実するためには数年かかる場合がある。



## 【結果】

化学合成農薬使用回数や作業時間短縮等の目標達成は困難と考えざるを得ない状況

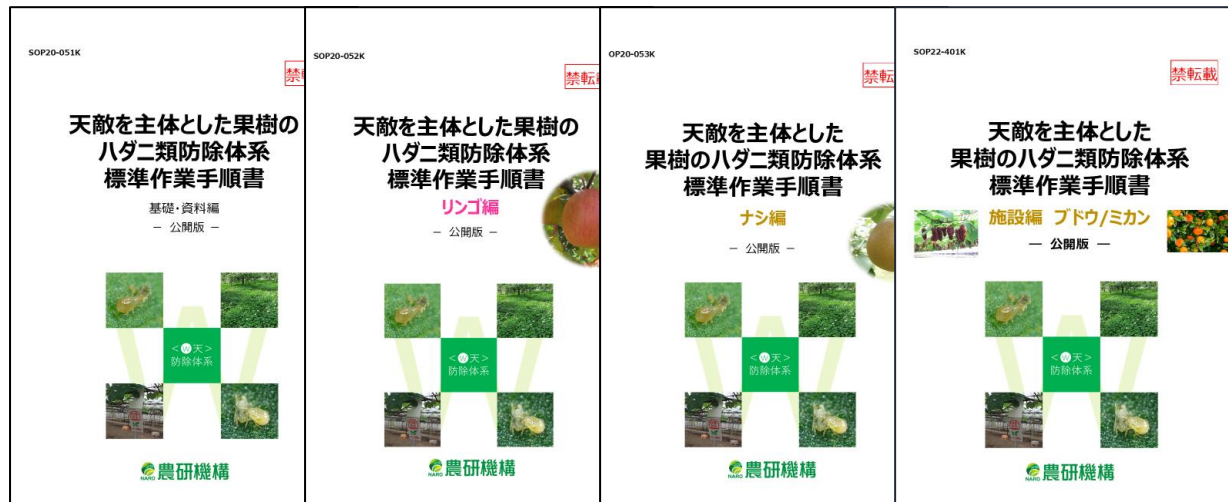


## 【要因】

- 想定外のハダニ、土着天敵の発生動態
  - ◀ 空梅雨、猛暑（イレギュラー？な気象要因）
- 作業上の制約（柔軟な対応が難しかった）
- ▼ 対応が後手に回った

導入プロセスにおける、  
試行を経て現地の特徴（状況、導入条件）が明らかになった段階

- ハダニや土着天敵の発生特性、作業上の制約に配慮した、現場の実際に即した天敵製剤の利用法の提案
- 今回得られた新たな知見や、課題とその対応策を、技術の改良・開発に反映 <想定外を想定内に>



標準作業手順書  
農研機構提供